

学校教育への懸念と外部機関の活用

(質問) ①児童生徒の可能性を否定しない指導を。②毎日の宿題確認、定期テストの共通化などによる最低限の学力保障を。③学力向上意欲のある、外部教育機関を利用する生徒への支援を。

(答弁) ①効率的・主体的な学習にも取り組む。生徒の意思や可能性を尊重した進路指導を行う。②教科書を活用した授業改善、生徒の学習状況を小まめに確認する指導改善などを行う。③通塾率は67.3%と高いが、学力検定・習い事・私立中通学への補助は予算上難しい。

その他の質問 ○道路緑化と交通安全



買い物弱者への支援について

(質問) 近年、食料品の購入に不便や困難を感じる「食料品アクセス問題」が顕在化しつつあるが、本市の現状と対策を問う。

(答弁) 店舗に行かなくても買い物ができるように高齢者向けのデジタル機器教室を開催するなど、デジタル格差を解消する取り組みも必要であるが、デジタル化だけではなく、事業の創業支援や福祉サービスの提供、地域公共交通などによる移動手段の提供など、関係部署が情報を共有し、連携して支援していく。

その他の質問 ○小学校高学年における教科担任制



防災協定と受援計画について

(質問) 災害時には防災協定などによって他の行政機関や各種団体から人的・物的資源の支援・提供が行われるが、迅速に受援を可能としスムーズな供給活動を開始するための実効性の確保を図るため、鈴鹿市災害時受援計画の策定を急ぐべきであると考えているがどうか。

(答弁) 現在、本市の地域防災計画や災害対策本部運営要領には受援・応援に係る記載はあるが、今後においては、より実効性の確保につなげられるよう、国のガイドラインも参考にして「受援計画」の作成に取り組んでいきたいと考えている。



中高年の支援の充実について

(質問) 病気や手術などさまざまな理由で、日常生活にパッドやおむつの着用が欠かせない方が、公共施設を使いやすく、安心して来所できるよう、男性トイレの個室にサンタリーボックスの設置を求める。わかりやすい案内掲示など、公共トイレの改善への見解はどうか。

(答弁) 本庁舎の男性多目的トイレには設置しているが、男性一般トイレにも設置を進める。トイレは乳幼児から全ての方が利用するものであるため、トイレの改善、とりわけサンタリーボックスの設置に努める。

その他の質問 ○子ども支援の充実



災害拠点病院について

(質問) 災害拠点病院・災害医療支援病院である鈴鹿中央総合病院、鈴鹿回生病院の施設の建て替えに向けて市負担分積立基金を創設してはどうか。両病院には市民の医療を守っていただいているため、市から補助を行うべきと考える。

(答弁) 両病院には過去にも新設移転に伴う財政支援を実施しており、今後の建て替え計画については、両病院の運営協議会に市長・議長などが加わり議論ができるよう積極的に働きかけ、支援の在り方や方策を検討していく。

その他の質問 ○鈴鹿市の基金と市債の現状
○白子中央雨水ポンプ場(旧第三排水機場)



協働による地域づくりについて

(質問) 市内全域で条例に基づく28の地域づくり協議会が設立された。防災・福祉・教育・子ども支援・文化など、さまざまな分野で活動し市民力は確実に向上しているが、対等なパートナーのはずの行政力は向上していない。協働のための計画策定や縦割り行政の改善などスピード感を持って取り組むべき。今後の協働による地域づくりをどのように推進していくのか。

(答弁) 地域の取り組みには敬意を表す。市としても、地域づくりの協働のパートナーとして適切な役割分担を果たせるよう、これまで以上に努力をする。

